

SHOW HEY シネマルーム

★★★★

ふたりの人魚

2000年・中国、ドイツ、日本映画・83分
配給/アップリンク

2004 (平成16) 年7月4日鑑賞
〈シネ・ヌーヴォ・中国映画の全貌2004〉

Data

監督：ロウ・イエ

出演：周迅（ジョウ・シュン）／賈
宏声（ジャ・ホンシェン）

👁️👁️ みどころ

水中人魚ショーを演ずる美人女優の周迅（ジョウ・シュン）が、美美（メイメイ）と牡丹（ムーダン）の1人2役を。上海の蘇州河を舞台に、美しい人魚をキーワードとして、男は愛する女をどこまで探していけるのかというテーマを面白く展開させていく物語。スクリーン上に姿を見せないもう1人の主人公のボクが語るこの物語は、夢のような現実の話・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

〈主人公はあの周迅〉

この映画の主人公は周迅（ジョウ・シュン）。陳凱歌（チェン・カイコー）監督の『始皇帝暗殺』（97年）で盲目の少女役を演じて強烈な印象を残し、その後中国のテレビドラマで人気を獲得した女優であり、この映画は彼女の映画第2作目の主演映画。ちなみに、章子怡（チャン・ツイイー）、趙薇（ビッキー・チャオ）、徐静蕾（シュー・ジンレイ）と並ぶ中国4大女優（四小名旦）と呼ばれるようになった周迅の第3作が『ハリウッド★ホンコン』（01年）で、第4作が『小さな中国のお針子』（01年）だ。

〈陰の主人公はボク、そして舞台は上海の蘇州河〉

この映画の陰の主人公はボク。ボクは1度もスクリーン上にその姿を見せることなく、語りだけで登場する。映画の冒頭、上海の蘇州河の流れが映される。そしてその蘇州河の流れを舞台とする多くの人たちの生活を見てきたボクの語りが流れていく。ボクの仕事は、ビデオ撮影で、どんな注文でも引き受けている。カメラは決してウソをつかず、人間のありのままの姿を映し出すからボクはこの仕事が好きだ。

そんなボクが今日呼ばれた仕事は、大きなバーでの美しい人魚が登場する水中人魚ショ

一の撮影だ。このショーを演ずるのは、美しい女性美美（メイメイ）（周迅）。この仕事をしているうちにボクはいつしかこの美美と一緒に生活するようになったが……。この美美がボクに言う言葉は、「私がいなくなったら、馬達（マダー）のように私を探しにきてくれる？」ということ。一体美美と馬達にはどんな出来事があったのだろうか……？

＜馬達と牡丹の登場＞

バイクに乗って配達物を届ける仕事をやっているのが馬達（賈宏声）。配達物はいつものはモノだが、今日の注文は人。つまり、中学生くらいの女の子をおばさんの家に運んでいってくれという注文だ。女の子の名は牡丹（ムーダン）（周迅）。髪を2つに分け、リュックを背負った活発そうで可愛い女の子。この子をおばさんの家に連れて行くのは、その間に親が浮気をするため……。しかしそんなことはどうでもいい。料金もいいし、仕事は仕事だ。バイクの後ろに牡丹を乗せて何度も走っているうち、次第にこの2人はいい仲……。しかし……？

＜馬達はちょっと変なヤツ＞

大体、この手の映画に登場してくる人物は、変なヤツと相場が決まっている。だって、そうでなければ観客の興味を惹きつけるような「物語」にはならないから。個人でバイク便をやっている（？）馬達は、ハンサムだが孤独。仕事が終われば家に帰り、ビデオを観て明け方に眠る。そういう生活の繰り返しだ。だから牡丹と知り合い、恋愛状態（？）に入っても、牡丹は普通の女の子らしい「求め方」をするものの、馬達の方はひどく冷淡。「今日は時間がたっぷりあるから、あなたの部屋に行きたい！」と牡丹に言われ、彼女を部屋に案内しても、することは2人でビデオを観るだけ。馬達はバカか！と思うほど、その心底がわからない……。

＜あっと驚く大事件＞

そこであっと驚く大事件が……。何と馬達は、牡丹を誘拐して、その父親から身代金をいただくという計画に入り込んでいたのだ。そのため馬達には、今日は牡丹を廃墟ビルに連れ込んで軟禁しておくよという任務を与えられ、それを忠実に実行することに……。驚いたのは牡丹だが、彼女の興味はただ1つ。「私の身代金は一体いくらなのか？」ということ。そしてコトが終わった後、それが45万円だとわかると、「私の価値はそんなに低いのか！」と叫んで、その場を走り去った。これを追いかける馬達だったが、牡丹は蘇州河の橋に立ち、「これ以上追いかけるなら、私はここから河の中に飛び下りる！」と宣言。さらに「私は、この河の人魚となってまた現われるわ！」と言い残して河の中へ！その後数日間、この河の周辺では、人魚出現の話で持ちきりとなったが……。

<美美を見つけた馬達>

主犯たちと共に逮捕された馬達は、刑期を終え、再び上海のまちに戻り、今や牡丹探しの毎日。そんな中、偶然に馬達が見つけたのが、水中人魚ショーに出演していた美美だ。当然そこからは話がややこしくなる。なぜなら、美美は牡丹ではないのに、馬達は、美美が牡丹だと信じ込んでいるから。馬達は、牡丹との悲劇的な物語を何度も何度も美美に語った。その話がつくり話なのかそれとも現実の話なのかわからないまま、美美はその美しい物語に感動し、その結果、ボクに対しても「私がいなくなったら、本当に馬達のように私を探しにきてくれる？」と質問してきたわけだ。ボクの答えは当然「イエス」。しかし美美はそれを「ウソ！」と断定。ボクとの共同生活を捨てて、1人出ていってしまった。



中国四大女優の1人 周迅
写真は「ハリウッド★ホンコン」(本文296頁)の周迅
「ハリウッド★ホンコン」セルDVD発売中
価格¥3990(税込) | 販売元:株式会社レントラックジャパン
BIG TIME ENTERTAINMENT

<美美は牡丹ではないことがわかった馬達は？>

ボクとの生活を捨てて出ていってしまった美美にボクは大ショックだが、それ以上に困ったのはバーの経営者。もともと美美につきまどってくる馬達を快く思っていなかった彼らは、馬達を探しあて、これに乱暴の限りを。これによって、馬達は美美に近づくのをやめようとの計算だったが・・・。たしかにこれによって馬達は美美と離れることになった。しかしそれは決して馬達が彼らの思惑どおりに従ったということではない。結局、馬達は、美美は美美であって、牡丹ではないことを悟らざるをえなかったということだ。

それを前提としてその後、馬達がとった行動は？それは、再度牡丹探しの努力を続けること。そして、ある日ついに馬達は、まちのコンビニの中で牡丹を見つけたが・・・？

<悲劇的な結末は愛の深さを物語るもの・・・>

この物語はハッピーエンドではない。むしろその逆。やっと巡り合えた2人は、その後・・・？変わり果てた2人の姿をみた美美は、はじめて馬達の語った物語が作り話ではなく、真実の物語だったことを理解した。そしてまた、目の前からいなくなった女性を、どこまでも探し求めていく男の愛の深さも・・・。

<1人2役の周迅の美しさにウツトリ>

この周迅という女優は、1人2役がよく似合う(?)。そしてまた美人だけに、その変身ぶりが面白い。『ハリウッド★ホンコン』(01年)では、「ハリウッド地区」に住むお嬢サマと出会い系サイトで男から金を巻き上げる現代娘(?)の2役を演じ分け、この『ふたりの人魚』では、美美と牡丹の2人を見事に演じ分けている。多少ややこしいストーリーになっているものの、この映画のテーマは一貫した愛。そして、目の前からいなくなった女性を、男性はどこまで真剣に探し求めていくことができるのかという単純なもの。そんな物語のヒロインとして周迅は最適。その輝くような魅力に拍手を送りたい。

2004(平成16)年7月5日記